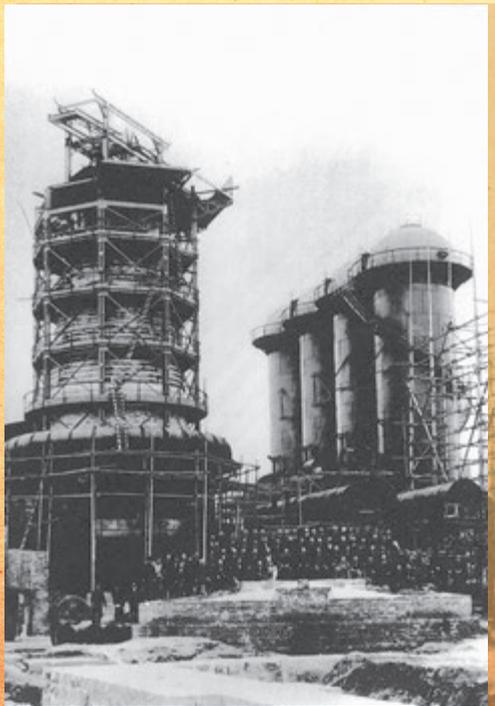


山本 作兵衛と筑豊の炭鉱



母子の入坑を描いた記録画(故・角銅 立身 氏の所蔵品)
筑豊の小規模炭鉱では、農業のように、家族で採炭労働に従事していました



官営八幡製鉄所と明治の元勲そして筑豊の炭鉱王
八幡製鉄所の設立とともに筑豊の炭鉱は繁栄し巨万の富が生まれました
(提供：新日鐵住金株式会社八幡製鉄所)

平成27年
4月30日(木) ▶ 6月28日(日)
 秋田大学 国際資源学部附属 **鉱業博物館**
 9:00~16:00 | 大人:100円 高校生以下:無料

特別講演会

■ 演題：山本作兵衛と筑豊の炭鉱
 ■ 田川市石炭・歴史博物館館長 安蘇 龍生 氏
 ■ 日時：4月30日(木) 13:30~
 ■ 場所：鉱業博物館 講堂

【プロフィール】
 1940年、福岡県生まれ。地元の福岡県立大学と連携して、山本作兵衛炭坑記録画等697点のユネスコ世界記憶遺産(登録名:山本作兵衛コレクション)への日本初の登録に尽力。

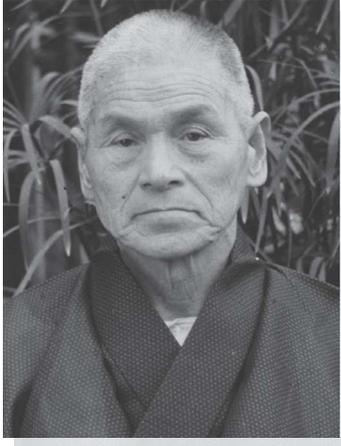


ギャラリートーク

本企画展企画者が展示について解説します。
 ■ 秋田大学国際資源学部教授 今井 忠男 氏
 ■ 日時：4月30日(木) 14:30~

ユネスコ世界記憶遺産が語る近代炭鉱の光と影

山本 作兵衛 氏のプロフィール



山本 作兵衛 (やまもと さくべえ)

昭和40年 橋本 正勝 氏 撮影

山本作兵衛氏は、1892年(明治25年)に、現飯塚市に生まれ、7歳から父について炭鉱に入っていました。正式には、1906年(明治39年)に14歳で山内炭鉱の炭鉱員となった後、1955年(昭和30)年に田川市の位登炭鉱を閉山によって退職するまで、約50年間も炭鉱で働いていました。この間、21鉱もの炭鉱を渡り歩いたようです。

坑夫を退職後、1957年(昭和32年)に長尾鉱業所の夜警宿直員になってから、作兵衛氏は、「子や孫にヤマ(炭鉱)の生活や人情を残したい」と炭鉱での記憶を絵に書き留めるようになりました。それらの絵は生前に画集としても出版されましたが、多くは未公開のまま、作兵衛氏は1984年(昭和59年)に92歳で亡くなりました。

その後、2010年(平成23年)に、作兵衛氏の作品は、田川市が所有する絵画585点を中心に、日記や原稿を含めた合計697点が、ユネスコ記憶遺産に登録されました。

角銅 立身 氏と作兵衛

今回、展示する山本作兵衛の2作品は、生前に作兵衛と交流があった故・角銅立身氏が所蔵されていたもので、氏の逝去後、ご遺族から秋田大学に寄贈されたものです。

角銅氏は、筑豊の炭鉱経営者の子息として生まれ、炭鉱開発を志して旧秋田鉱山専門学校に入学されました。卒業後、一旦は、筑豊の大手の炭鉱に技術者として就職されましたが、炭鉱労働者の苦境を目にし、その救済のため、苦学して弁護士になられました。その弁護士活動の中で、作兵衛との交流が進んでいったようです。



©Yamamoto Family



©Yamamoto Family

ユネスコ世界記憶遺産 (Memory of the World) とは?

ユネスコでは、世界遺産(World Heritage、不動産)の登録とともに、人類が長期に記憶してきた書物などの記録物(動産)を今後も保存するために、ユネスコ世界記憶遺産として登録事業を行っています。2014年1月現在では、世界に301点の記憶遺産が登録されています。

筑豊炭田について

筑豊(ちくほう)地域とは、福岡県北部の飯塚市、直方市、田川市を中心とする地域で、この辺りに発達した炭田を筑豊炭田と言います。江戸時代中期には、製塩業で利用する石炭を生産するため、小倉藩によって筑豊炭田の開発が進みました。さらに、近代に入り、明治31年(1901年)には、筑豊炭田を背景に、小倉に八幡製鐵所が設立されると、石炭の需要が急増し、大手資本によって、筑豊炭田の開発が進んでいきました。最盛期の昭和27年(1952年)には、265鉱に達しました。

